

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2026年4月29日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約・編集し、5月11日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。

報道関係各位

2026年5月11日

ベレン・ガリーホ(Belén Garijo)氏、サノフィの取締役兼最高経営責任者(CEO)に就任

パリ、2026年4月29日 – サノフィは、フレデリック・ウデア議長のもと、2026年4月29日に定時株主総会を開催しました。すべての決議は株主の高い支持を得て承認され、特にベレン・ガリーホ氏の取締役への選任が承認されました。2月11日の取締役会の決定に基づき、ベレン・ガリーホ氏は2026年5月1日付で最高経営責任者(CEO)に就任します。

取締役会会長フレデリック・ウデアは次のように述べています。「ベレン・ガリーホ氏は、真にグローバルな環境で培われた、科学的専門知識と事業運営のリーダーシップという稀有な資質を兼ね備えています。医師としての専門性を基盤に同氏は、研究開発・戦略・ビジネスモデル変革が交わる領域で確かな実績を築いてきました。取締役会は、次の成長フェーズにおいてサノフィを率いる人物として同氏を選出しました。明確な優先事項は、実行力の強化、資本配分の精緻化、そして当社の科学的な強みを持続可能な業績向上に確実に結びつけることです。また、同氏はサノフィでのキャリアにおいて多くの成功を収めてきた経験も有しています。ますます厳しさを増す環境において、選択の明確さと実行の一貫性に根ざした同氏のアプローチは、会社の変革を加速し、患者さん、株主、従業員、そしてすべてのステークホルダーに対して長期的な価値を創出するうえで不可欠なものとなるでしょう」

株主総会では、2025年度の単体および連結決算が承認され、1株当たり4.12ユーロの普通配当の実施が決定されました。配当金は2026年5月7日に支払われます。

また、株主総会ではクリストフ・バビュル氏およびジャン＝ポール・クレス氏の取締役任期の更新も承認されました。取締役会は、オレンジ社CEOのクリステル・エデマン氏を独立社外取締役として迎えることを喜ばしく思います。同氏はトップリーダーとしての経験と、デジタル・AIテクノロジーに関する知見をもたらします。

現在の取締役会は、従業員代表2名を含む16名で構成されています。独立性比率は79%、女性比率は57%、外国籍取締役は8名で全体の50%を占めています。

ポール・ハドソン氏およびパトリック・クロン氏の退任を受け、指名・ガバナンス・CSR委員会の提案に基づき、取締役会はフレデリック・ウデア氏を同委員会の委員長に任命しました。また、取締役会はベレン・ガリーホ氏を戦略委員会のメンバーに、クリステル・エデマン氏を指名・ガバナンス・CSR委員会および報酬委員会のメンバーにそれぞれ任命しました。

定時株主総会の議決結果および動画は[こちら](#)(英語)からご覧いただけます。

ベレン・ガリーホ氏 略歴

ベレン・ガリーホ氏は、メルク社のCEO兼社長を5年間務め、2011年の入社以来、同社内ですさまざまな要職を歴任しました。同氏はヘルスケア事業の抜本的な変革を主導し、ポートフォリオの再編、研究開発組織の再構築、商業モデルの再整備を特徴とする事業の立て直しを実現しました。この戦略的転換により、メルクは腫瘍学および免疫学分野におけるグローバルプレーヤーとしての地位を確立しました。

それ以前は、サノフィ・アベンティスにてグローバル・オペレーションズ・ヨーロッパ担当シニアバイスプレジデントを務め、ジェンザイム買収後の統合を主導しました。また、ヘルスケア業界の最前線に立つ複数の企業において、研究開発および商業開発の分野でリーダーシップポジションを歴任しています。ベレン・ガリーホ氏は臨床薬理学を専門とする医師であり、マドリードのラ・パス病院での臨床医としてキャリアをスタートさせました。

サノフィについて

サノフィは、研究開発型の AI を活用したバイオ医薬品企業であり、人々の暮らしをより良くし、力強い成長をもたらすことに尽力しています。免疫科学領域の深い知見を活かし、世界中の何百万人もの人々の治療と予防を行う医薬品やワクチンを提供し、さらなる貢献のために革新的なパイプラインの構築にも注力しています。「人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する」という使命のもと、医療・環境・社会が抱える課題に真摯に向き合い、社員と国や地域社会にとって前向きな変化を生み出すことを目指しています。

サノフィは、ユーロネクスト(EURONEXT: SAN)とナスダック(NASDAQ: SNY)に上場しています。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<https://www.sanofi.co.jp/> をご参照ください。

サノフィの今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改革法(改正を含む)およびその他の適用される証券法でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。

サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。

またそのようなリスクと不確実性には、サノフィの2025年12月31日終了事業年度のフォーム20-F年次報告書またはその他のフォーム6-Kによる定期報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述についての注意事項」項目を含む、サノフィが作成したSECおよびフランス金融市場庁(AMF)に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。これらのリスク、不確実性および前提条件を踏まえ、本資料に含まれる将来の見通しに関する記述に過度に依拠することは避けてください。